

編集後記

秋も深まってまいりました。会誌一〇四号をお届けします。前号から引き継ぎの原稿も数篇あり、一〇四号用にお願ひした原稿もスムーズに提出いただいたため、予定の時期に刊行することができました。引き継ぎ原稿の多さ、原稿のスムーズな提出は、何よりも地方史研究の盛行を物語っていると思います。喜ばしい限りです。

「論説」「史料紹介」とも、これまでの空白をついた貴重なものばかりですが、本号では「研究ノート」と「書評」に意を用いました。「研究ノート」は、研究余滴ともいうべき鋭く貴重な指摘や発見を、その分量にかかわりなく、気軽に提出いただくものとしてはどうかと考えた結果です。また、これまで本誌にあまり登場しなかった「書評」をお願いしたのは、地方史研究がとすれば一人よがりな墮す危険性をはらんでいるため、相互批判の重要性を感じていたからです。

会員諸氏の研究の、ますますの進展を祈ります。

(末広)

昭和五十六年十月二十六日 印刷  
昭和五十六年十一月一日 発行

大分県地方史 第一〇四号

編集者 末 広 利 人

発行者 渡 辺 澄 夫

印刷者 中 尾 寿 孝

別府市中央町九一―五

印刷所 日の丸印刷株式会社

(電話 ②〇三四一)

発行所

〒八七〇一一 大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・下関五二九四番)